

埼玉アートシアター 通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2015.3-4

NO. 56

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第30弾

さいたまネクスト・シアター 第6回公演 『リチャード二世』

蜷川幸雄インタビュー／セルマ・ホルト／蜷川幸雄80周年記念作品『海辺のカフカ』

コンドルズ 埼玉公演 2015 新作『ストロベリーフィールズ』／テロ・サーリネン『MORPHED-モーフ』

2015年度 音楽公演ラインナップ／アンサンブル・ウィーン=ベルリン



2015.3-4
NO. 56

- 03 **PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾×さいたまネクスト・シアター第6回公演
『リチャード二世』 蜷川幸雄インタビュー
- 06 **PLAY** セルマ・ホルト (演劇プロデューサー) インタビュー
- 07 **PLAY** 松竹大歌舞伎 中村翫雀改め四代目中村鴈治郎襲名披露
- 08 **PLAY** 蜷川幸雄 80周年記念作品『海辺のカフカ』
- 10 **DANCE** コンドルズ 埼玉公演2015新作『ストロベリーフィールズ』
近藤良平×佐藤まいみ
- 12 **DANCE** テロ・サーリネン『MORPHED-モーフ』
- 14 **MUSIC** 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール&埼玉会館
2015年度公演ラインナップ
- 17 **MUSIC** アンサンブル・ウィーン=ベルリン
- 18 **REVIEW** 2015.1-2 彩の国のアーツ
- 20 イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ
- 23 THEATER BRIDGE
- 24 **COLUMN** 彩の国 LOUNGE vol.16



COVER
彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾×さいたまネクスト・シアター第6回公演
『リチャード二世』 Photo◎細野晋司

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2015.3-4 No.56
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘、河西謙一 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15. March 2015 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2015年2月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

立ち止まらない

蜷川幸雄は

2015年、

自身8度目の新演出となった『ハムレット』で2015年の幕を開け、彩の国シェイクスピア・シリーズとして初登場するさいたまネクスト・シアター公演『リチャード二世』、そして『ハムレット』の台湾・ロンドン公演、『海辺のカフカ』のワールド・ツアー及びさいたま凱旋公演など、今後も演出作品が次々と控える蜷川幸雄。病に倒れてもなお、その歩みを止める気配はない。

英国における蜷川作品のプロデューサーを長年手がけるセルマ・ホルトと、『ハムレット』初日の舞台上にて。

取材・文◎市川安紀 Photo◎細野晋司 (人物)

Richard II

彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾
さいたまネクスト・シアター第6回公演
『リチャード二世』

香港での異変

昨年11月14日。さいたまゴールド・シアター初の香港公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』初日の朝に現地であつた蜷川は、そのまま日本に搬送され、緊急入院の措置がとられた。

「もともと体調は良くなかったけれど、アジアを大切に考えていることをわかってもらいたくて」現地に足を運んだという事情があった。2013年のパリ公演で好評を得たゴールドの代表作が、若者たちによる大規模デモが行われた香港でどのように受け止められるのか、その目で確かめたいという思いもあった。蜷川が本番を観ることはできなかったが、同作は香港、そして再び訪れたパリでも熱狂的に迎えられ、年末の豊橋、川越公演で盛況のうちに幕を降ろす。

香港で倒れてから1カ月後、蜷川は療養を続けながら『ハムレット』の稽古場に通り、連日燃えたるような激しい稽古を繰り返した。

「酸素吸入器をつけていることはもう(報道の)写真で見せちゃおうと思っていたけれど、どうやったら作品がうまく創れるか、無我夢中だった。演出に集中していたから、自分の体調なんて考える暇もありませんでしたね」

根底にある「恥ずかしさ」

今回の『ハムレット』では、『唐版 滝の白糸』(13年)で故・朝倉摂が手がけた古びた長屋を装置として使用した。

「経済的効果のために同じものを使ったわけじゃないんです。明治時代に日本の民衆が住んでいた建造物の前で『ハムレット』を演じることで、ヨーロッパ的知性の在り方をどう捉えたら我々が考える演劇

驚きたい。
そして
驚かせたい

に近づくのか、もう一度検証したかった」シェイクスピアをはじめとするヨーロッパ古典劇と接する時、蜷川は日本人としての原始の記憶や現在形とどうリンクできるかを常に自問し、はっきりとしたビジュアルで提示することが多い。彩の国シェイクスピア・シリーズの最新作として上演するさいたまネクスト・シアター公演『リチャード二世』も、あるビジョンが蜷川の頭に浮かんでいる。今回はゴールドのメンバーも出演する予定だ。「オープニングは江戸袷や紋付袴のような冠婚葬祭の和服を着て、老人や若者が数十人、そろそろと奥から列をなして歩

いてくる。一斉に着物を脱ぐと、その下には燕尾服を着ていて、タンゴを踊り出す……。今、考えているのはそれだけ。日本的な記憶と、ヨーロッパ的な観念や時間を取り持つ作業をやってみよう。昔、ロンドンで『タンゴ・冬の終わりに』を上演した時、主演のアラン・リックマンが踊るタンゴがものすごくセクシーだったんですよ。そのエロティシズムと、日本の冠婚葬祭の出で立ちとを往還させながら、我々の現在を問うてみたいと思っている。まあ、試してみないとうまく行くかはわからないけどね」

こうして日本人が西洋劇を演じるこ

さいたまネクスト・シアター第3回公演『2012年・蒼白の少女少女たちによる「ハムレット」』Photo ©宮川舞子



『海辺のカフカ』(2014年) Photo ©渡部孝弘 提供: ホリプロ

『ハムレット』(2015年) Photo ©渡部孝弘 提供: ホリプロ



の根本的な向き合い方を問いつつ創作を続けてきた源泉には、ある種の羞恥心が横たわっていると蜷川は言う。

「知らん顔してヨーロッパの演劇をやることが恥ずかしいという思いがどこかにあるんですよ。自分の両親に見られたら恥ずかしいよな、と。東京のエリート校に進んだ自分が、地元の高校に行った連中と地元で出会った時の恥ずかしさも、原体験として大きいと思う」

今年は蜷川の“生誕80周年”を記念して世界各地でも公演が続くが、「祝ってくれることは嬉しいけれど、やっぱり本当は恥ずかしいんです」と笑う。

文体をビジュアル化

『ハムレット』の台湾・ロンドン公演に続いて、ロンドン・ニューヨーク・シンガポール・ソウルと半年以上にわたり世

さいたまネクスト・シアター第5回公演『2014年・蒼白の少女少女たちによる「カリギュラ」』Photo ©細野晋司



界ツアーが予定されているのが『海辺のカフカ』。9・10月にはさいたま凱旋公演も予定されている(P8～9参照)。三次元化される機会の少ない村上春樹作品を、演劇にしかできない手法で立体化し、めくるめく迷宮へと観る者を誘う傑作だ。舞台上を縦横無尽に動くアクリルボックスが生き物のように呼吸し、図書館や深い森へと、自在に時間と場所を越えてゆく。蜷川自身にとっても快心作である。

「自分でも最高にいいと思ってるんですよ。若い頃に見たニューヨークの自然史博物館のディスプレイをいつか使おうと温めていて、『海辺のカフカ』にそのイメージがぴったりと合った。村上さんの文体をビジュアル化した演劇を、ぜひ(世界で)見てもらいたいですね」

世界中の〈ハルキスト〉たちの反応が楽しみだ。

さらに秋には彩の国シェイクスピア・シリーズの第31弾『ヴェローナの二紳士』も控えている。年10本以上を演出していた昨年までに比べればさすがにペースは緩やかになっているが、意欲は衰え知らず。『ハムレット』のように過去7度手がけた作品でも「いかに新しいものを創れるか」に心を砕き、〈守り〉の姿勢に入るとは決してない。

「攻めているつもりはないけれど、自分が飽きるから。芝居の楽しみは驚きたいということ。そして同時に驚かせたい。観客の想像力を限定する作品は創りたくないんです。想像力を自由に羽ばたかせながら仕事をしたいですね」

公演概要

蜷川幸雄 80周年記念作品
彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾
さいたまネクスト・シアター第6回公演
『リチャード二世』

日 時: 4月5日(日)～4月19日(日)

4月	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:30		★	休	★	★		★	★	休	★	◎	★	★	★	
18:30	★		休		★	★	★		休		★	◎		★	

※◎印の回は記録映像収録のため、場内にカメラを設置します。

会 場: 彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター (大ホール内)
※本公演は大ホール舞台上の特設劇場での上演のため、客席及び椅子の形状が通常と異なります。

演 出: 蜷川幸雄
作: W. シェイクスピア
翻 訳: 松岡和子
出 演: さいたまネクスト・シアター、さいたまゴールド・シアター

チケット(税込) 好評発売中
全席自由 一般: 4,000円 メンバース: 3,600円

蜷川さんに “不可能”は ありません

—1985年にエディンバラで上演された『NINAGAWA・マクベス』が蜷川作品との出会いだそうですね。

ええ。翌年には『女王メディア』を観て、ぜひロンドンに呼びたいとオファーしたんです。ギリシャ悲劇は若い人には取っ付きにくいものですが、蜷川さんの『メディア』は物語が明確に表現されていてエキサイティングでした。ナショナルシアターの芸術監督ピーター・ホールに「どちらも良い作品なので2本とも呼びたい」と打診して87年に実現したんです。『メディア』ではクレーンを使ったフライングに観客も驚いていました。蜷川さんのアイデアを実現するには多くの時間とお金と忍耐力が必要ですけど(笑)。

—以来、30年近くにわたって蜷川作品のプロデュースを続けていますね。

蜷川さんのアイデアにはいつも感動させられますし、全く飽きません。困難は多くても「やって良かった」と思えるんです。〈さいたまゴールド・シアター〉を始めたり、蜷川さんの関心や発想は年月と

『NINAGAWA・マクベス』
(1987年 英国ナショナルシアター) 製作: ポイント東京

共に広がっていますが、根源的な部分はお会いした時から変わりませんね。自分が描いたビジョンに強い信念を持ち、必ず実現させる。見ているとワクワクします。彼は「不可能」という言葉の意味すら分かっていないかもしれません。

際立つ普遍性

—“ニナガワ・シェイクスピア”がイギリスで受け入れられる理由はどこにあると考えていますか。

蜷川さんはシェイクスピアの学説などには興味がなく、劇作家が書いた戯曲を演出することだけを考えています。答えは台本の中にあると信じている。もしシェイクスピアが現代に甦って「あなたの戯曲を誰かに演出してもらおうとしたら？」と訊かれたら、「セルマがいつも頼んでいる日本人の演出家を」と言うでしょうね。シェイクスピアは人間の魂をMRIのようなカメラでスキャンしています。蜷川さんが日本的な感性で演出した舞台を観て、我々イギリス人は「日本人にもシェイクスピアの普遍性を分かってもらえた」と思うんですよ。今回の『ハムレット』でもクローディアスの祈りの場面など和風の要素がありますが、大抵のイギリス人は理解できるはずですよ。

取材・文◎市川安紀 Photo◎細野晋司

蜷川作品の 英国公演プロデューサー セルマ・ホルト インタビュー

1980年代後半から現在に至るまで、蜷川作品を英国で紹介し続けているプロデューサー、セルマ・ホルト。この5月には蜷川の生誕80年を記念して、ロンドン・バービカンシアターにて『ハムレット』『海辺のカフカ』を連続上演する。海外公演におけるよきパートナーが語る、“BIG NINA”の魅力とは。

—今回、ロンドンでは現代劇『海辺のカフカ』も上演されます。

蜷川さんの80歳を祝って2本上演することにしました。『カフカ』は現在私たちが生きている世の中をよく捉えています。いつもの蜷川作品のように幕が降りても誰かと話したくなったり、考えさせられる余韻が残る作品です。両方ともチケットはよく売れていますよ。

—今後も蜷川作品を紹介し続けますか。

もちろん! 彼は私のプロデューサーのキャリアの中でもとても重要な存在です。常にチャレンジしていて、神様が創られた唯一無二の存在ですね。蜷川さんはイギリスでとても人気があって、“BIG NINA”と呼ばれています。多くの演出家が彼のアイデアを盗んでいますよ。物が落ちてきたり、赤いリボンが使われていたりすると、「あれ、ちょっとニナガワ的だったね」と囁き合っんです(笑)。

★『ハムレット』5月21日~24日
『海辺のカフカ』5月28日~30日
ロンドン・バービカンシアターにて上演

セルマ・ホルト Thelma Holt

プロデューサー。1987年、ロンドン・ナショナルシアターにて蜷川幸雄演出『NINAGAWA マクベス』『女王メディア』を含む国際演劇祭を制作し、オリヴィエ賞受賞(蜷川は演出家賞にノミネート)。90年に自身のカンパニーを設立、蜷川を始め、イングマール・ベルイマン、ピーター・ホール、トレバー・ナン、グレゴリー・ドランなどによる演出作品を数多くプロデュースしている。大英帝国勲章 CBE 受勲。

松竹大歌舞伎

中村翫雀改め四代目中村鴈治郎襲名披露

嬉つてました!



成駒家!

受け継がれる上方歌舞伎の大名跡

©松竹

この3月に閉館となる熊谷会館に代わって、今年の「松竹大歌舞伎」は会場を熊谷文化創造館さくらめいとに移して行われる。上方(関西)歌舞伎を代表する大名跡、四代目中村鴈治郎の襲名披露興行だ。今年1・2月の大阪松竹座を皮切りに、4月の歌舞伎座を経て、夏から秋にかけては日本全国を巡演する。翫雀改め鴈治郎は、人間国宝である坂田藤十郎の長男。父が名乗っていた三代目から当代を受け継ぎ、父を中心とする上方歌舞伎の盛り上げ役として期待されている。誠実で温かな芸風で、喜劇も味わい深い。

公演概要

平成27年度公文協東コース **松竹大歌舞伎**
中村翫雀改め 四代目中村鴈治郎襲名披露

日 時: 7月2日(木) 昼の部12:30/夜の部17:00
会 場: 熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール
演 目: 『双蝶々曲輪日記 引窓』、『襲名披露 口上』、『連獅子』
出 演: 中村翫雀改め四代目中村鴈治郎
坂田藤十郎、中村扇雀、尾上松緑 ほか

チケット(税込)

一 般: S席6,500円/A席4,000円/B席2,000円
メンバース: S席6,000円/A席3,600円
※イヤホンガイド(有料)あり。

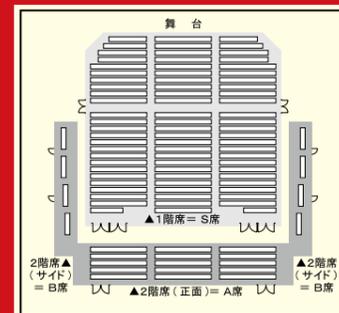
発 売 日: 一般4月18日(土) メンバース4月11日(土)

今回の演目は、まず初代鴈治郎が選定した“家の芸”『玩辞楼十二曲』に数えられる『双蝶々曲輪日記』より『引窓』。鴈治郎演じる南与兵衛(後に十次兵衛)は、尾上松緑扮するお尋ね者の人気力士・濡髪長五郎が継母の実子であることを知り、彼を捕まえずに逃がそうとする。互いに相手を思う心が胸にしみる人間ドラマだ。近年、若手女方のホープとしてめきめき頭角を現している鴈治郎の長男・杏太郎が、夫と姑の間で揺れる女房お早を勤める。鴈治郎の弟・扇雀と、その長男・虎之介が親子で演じるのは『連獅子』。親獅子が仔獅子を谷に落として鍛える伝説をもと

にした能『石橋』を歌舞伎に移した人気舞踊だ。紅白の長い毛を親子獅子が揃って豪快に振る「毛振り」は興奮必至。

もちろん、襲名に欠かせない『口上』も行われるので楽しみに。藤十郎をはじめ幹部俳優がずらりと勢ぞろい。口上の挨拶のなかに、襲名に期する当人の覚悟や、息子のさらなる飛躍を願う親心を感じることができるだろう。ちなみに、今回の襲名を機に、一門の屋号も「成駒屋」から「成駒家」に変わった。江戸歌舞伎系の成駒屋とは違いも明確になり、上方歌舞伎の発展を担う一門として、さらに結束も固まるに違いない。

〔太陽のホール〕座席表



熊谷文化創造館さくらめいと

〒360-0846 埼玉県熊谷市拾六間111-1

【電車】

JR高崎線原駅
○タクシー: 熊谷文化創造館さくらめいとより約5分
○徒歩: 熊谷文化創造館さくらめいとより約15分
※当日は熊谷文化創造館さくらめいと間の臨時無料バス「さくらめいと号」を運行いたします。

【お車】

国道17号「自衛隊入口」交差点より2km
国道140号バイパス「武体西」交差点より2km
○無料駐車場400台

『海辺のカフカ』の 神話性

文◎内田 樹 (思想家)

村上春樹の物語はどれも骨格のはっきりとした神話的構造を持っている。聖なるものと邪悪なもの、清浄なものと穢れたもの、エロティックなものとの暴力的なもの、癒すものと傷つけるもの……そのようないくつかの根源的な二項対立によって整然と物語構造が組み立てられている。けれども、構造がしっかりしているということは物語が単調であるとか反復的であるとかいうことを意味しない。物語は「二項のあいだ」に、神話的構造がつくりだす「空白」のうちに棲まっているからである。いわば、物語の構造は「建物」であり、物語は「そこに住む人」である。家の場合と同じで、構造が「やわ」だと、住人は柱を支えたり、雨漏りを塞い

だりして、構造を保つことに相当なエネルギーを使わなければならない。逆に、構造が堅牢で宏大であれば、住人は家の管理や営繕のことなんかには患わずに、与えられた自由を活用して自分がしたいことに集中できる。

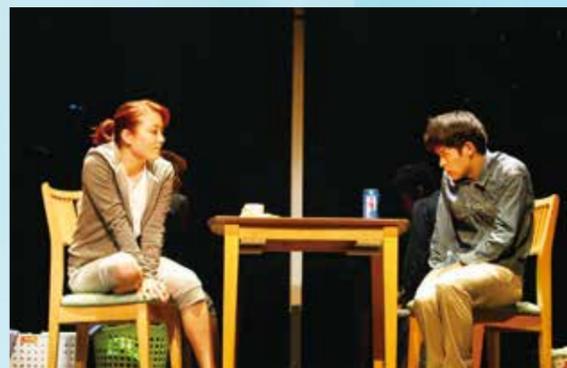
村上春樹の物語が神話的であるのは、神話的構造のうちにある限り、作家は細部を書き込むことからこそ豊かな愉悅を引き出すことができるということに彼が熟知しているからである。彼が最も愛する作家のひとりにレイモンド・チャンドラーがいる。チャンドラーの長編小説を村上は次々と翻訳しているけれど、それは本人の言葉によれば、何よりも胸ときめくようなすばらしい細部を味わうため

村上春樹原作、蜷川幸雄演出により
2012年に初演、2014年に再演された
傑作舞台が、世界を駆け巡る。
ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、
ソウルと続く世界ツアーの間に行われる
さいたま凱旋公演をお見逃しなく。

Photo ©渡部孝弘 (2014年の舞台より)

だ。フィリップ・マーロウが謎めいた依頼者から頼まれた意味がよくわからない人捜しをしているうちに思いがけないトラブルに巻き込まれ、警察にこづかれ、ギャングに脅され、踏みつけられ、心身に傷を負いながらも、依頼者の「誰にも言えない弱さ」を守り抜く……という定型を「定型的だからつまらない」という読者はいない。まさにその定型の堅牢さこそが探偵の気分のわずかな変化や脳裏をよぎるかすかな思念をくっきりと際立たせてくれるからである。物語の構造が堅牢であるほど物語の細部は輝きを増し、深みを増す。

そして、神話は私たちの知る限り、最も構造の堅牢な物語である。神話によっ



鈴木 杏 (さくら) と古畑新之



木場勝己 (右/ナカタ)

て私たちの世界はコスモロジカルに整序される。昼と夜、男と女、戦争と平和、美と醜、正義と邪悪……そのような二項対立は現実を映し出しているわけではない。そうではなくて、それが現実を今あるようなものたらしめているのだ。だとすれば、細部を描くことから愉悅を引き出すとする書き手と、細部を味わうことを享受しようとする読み手が神話構造を選好するのは当然のことなのである。

『海辺のカフカ』は村上春樹の小説群の中でも際立って神話的な作品である。母と通じるオイディプス (佐伯さんとカフカ) の物語、動物と人間の間を行き来する人 (ナカタさん)、男と女の間を行き来する人 (大島さん) というトリックスターの物語、現代的な意匠をまとったカラフルな古代神たち (カーネル・サンダーズとジョニー・ウォーカー) の物語、世界に秩序を与えている「石」の物語……さまざま

の神話的断片が物語の中を乱舞している。乱舞しているにもかかわらず、読み終えられたとき、この物語がなぜか静物画のようなしんとした印象を残すのは、それらの物語要素がどれも「人間がこの混沌とした世界にコスモロジカルな秩序を与えるために語らずにはいらなかった物語」の一部だからである。この物語を構成しているすべてのものが神話的必然によってそこにあるからである。だから、偶然的なものは『海辺のカフカ』にはひとつもない。けだし神話の功德というべきであろう。

蜷川幸雄はこの物語を演出する上での構えを「壮大な物語にちりばめられた小さく美しいディテールをとらえること」と表現した。ディテールをとらえ、磨き上げ、際立たせることができれば、この劇は成功する。演出家はそう直感していた。私も同意の一票を投じる。というのは、『海

辺のカフカ』という物語は、いくつかの断片を細部に至るまでいねいに舞台化できれば、物語の全容に触れた気になるように構造化されているからである。

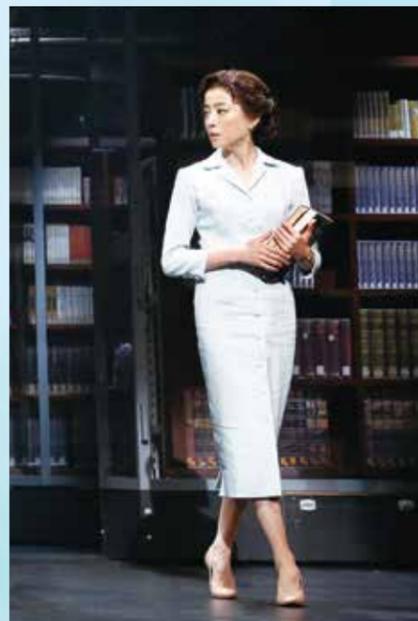
部分によって全体を暗示する修辞を「換喩 (metonymy)」と呼ぶ。私たちは「ワシントン」が単なる都市名であるだけでなく、「米国政府」を意味していること、「ウォール・ストリート」が単なる通りの名であるだけでなく、「米国の金融業界」を意味することを知っている。部分を精密に描けば、そこには言及されていない全体についてまで見通せるという「仕掛け」のことを「換喩的」と形容することが許されるのなら、『海辺のカフカ』はすぐれて換喩的な物語だということができる。

そう思うと、なぜ蜷川幸雄が村上春樹の他の作品ではなく、『海辺のカフカ』を舞台化に際して選択したのか、その理由が私にはなんとなくわかるような気がする。



古畑新之 (カフカ)

宮沢りえ (佐伯)



藤木直人 (大島)



内田 樹 (うちだ・たつる)

思想家。東京大学文学部仏文科卒業。専門はフランス現代思想、武道論、教育論など。著書に『日本辺境論』『街場の戦争論』『日本の身体』『街場の共同体論』『もういちど村上春樹にご用心』など多数。

公演概要

蜷川幸雄 80周年記念作品『海辺のカフカ』 さいたま凱旋公演

日 時：9月17日(木)～10月4日(日)

9月	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10月	1	2	3	4	
	木	金	土	日	月祝	火祝	水祝	木	金	土	日	月	火	水	10月	木	金	土	日	
13:30			★	★		★	★			★	★		★		13:30				★	★
14:00					休演			★				休演		★	14:00	★				
18:30	★	★	★			★			★	★			★		18:30		★	★		

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
原作：村上春樹
脚本：フランク・ギャラティ
演出：蜷川幸雄
出演：宮沢りえ、藤木直人、古畑新之、鈴木 杏、
柿澤勇人、高橋 努、鳥山昌克、木場勝己 ほか

チケット(税込)
一般・メンバーズ：S席10,800円/A席8,700円
※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。

発売日：一般6月13日(土) メンバーズ6月6日(土)
※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります。[5月上旬受付開始(予定)]

彩の国のコンドルズ 足掛け10年の歩み

新作『ストロベリーフィールズ』の公演が5月に決定したコンドルズ。彩の国さいたま芸術劇場では2006年から足掛け10年、新作上演を続けている。近藤良平と当劇場ダンス部門プロデューサー佐藤まいみとが、二人の縁あっての出会いから埼玉で公演を続ける意義、そして新作について語り合った。

取材・文◎川添史子(編集者・ライター)

Ryohhei Kondo

近藤 当時はまだ一方的だったけれど、まいみさんのことは実際にお会いする前、ダンスを始めた横浜国立大学在学中に知りました。80年代末に横浜で開催された「ヨコハマ・アート・ウェーブ」。ピナ・バウシュとか、ローザスというダンスカンパニーのような、いわゆるトップ・オブ・ヨーロッパのダンスにそこではじめてふれて、自分とは関係ない遠い世界のものだったダンスを身近な存在に感じたんだよね。こういうことをやりたいと思った。それをやっていたのがまいみさんだった。

佐藤 わたしが良平さんを知ったのは90年代半ばで横浜の小さな劇場。横浜国大ダンス部の発表会があって、そこに良平さんがゲストで

出ていた。ギターを弾きながら客席から出て来て、そのまま袖に消えてった(笑)。えっ「踊らないの!？」って思って。それが妙に引掛かって、次はこの人のダンスが観たいなって思ったの。で実際に観られたのは、グローブ座でのコンドルズ『ビューティフルサンデー』(99年)。怖いもの知らずのこのタイトルにまずびっくりしたんだけど、そこで良平さんが生ピアノでパスカル・コムラードの曲を弾いていたんだよね。で、そのときに「コムラードと良平さんのコラボ企画ができたらいいな」と思ったんです。そのころは「神奈川県国際芸術フェスティバル」で若手振付家と他ジャンルの経験豊かなアーティストとのコラボレーションというのを考えていたところだったので(2000年、『春男〜Spring Man〜』として実現)。

近藤 「ものすごい興味ある」って即答しましたよね(笑)。「アメリカよりヨーロッパの踊りが自分には合うモノがあるんじゃないかな」って漠然と感じていた時期でもあったから。そこに佐藤まいみさんという人が「登場」したんですよ。「こっち面白いよ」って門でヒラヒラと手招きされて(笑)。

佐藤 ふふふ。でもその時感じた音楽性は今にもつながるコンドルズの魅力かも。良平さんの使う音楽って豊かで広い。クラシックもロックもポップスも。

近藤 ワールドミュージックも好きだし。僕は基本、「楽器があって、音楽が生まれて、そこで人が踊るのがよろしい」っていう考え方(笑)。なので楽器、音楽は重要です。

佐藤 その感覚に訴える力、音楽の幅広さがコンドルズのファン層の厚さにつながる気がします。

継続的なクリエイション

近藤 まいみさんが神奈川から埼玉に移って、「ここでもやろうよ」ってまたヒラヒラと手招きしてくれて。

佐藤 それまで彩の国さいたま芸術劇場は海外のトップレベルのカンパニーの公演が特徴で観客もそれを楽しみにしていた。なのでそれは維持しつつも、地元の観客にも親しみの持てる作品にも取り組みたいと思って。最初に思い浮かんだのがコンドルズ。コンドルズは観客とコミュニケーションしながらユーモアいっぱいの舞台を作るので客席と舞台の境界線を外してくれるかなと期待しました。

近藤 埼玉って、劇場の外に大きな看板を出してくれるじゃないですか。海外の大カンパニーと同様、蜷川幸雄さんの演



Photo © Matron

出作品のポスターの脇に貼ってくれる。敬意を表して招いてくれていることが伝わってくるんですよ。

ここでやり始めたころなんて、コンドルズって何? っていう人のほうが多かったと思うけど。

佐藤 2006年、約10年前ですね。

近藤 僕らの、ちょっと他の表現とは外れた価値観ってなかなか伝えにくいんだけど、埼玉ではデコボコなまま、「これもアートではないか?」と、いいあんばいで紹介してくれる。こんなに長く続けてくださる劇場もないです。

佐藤 毎年5月になれば埼玉でコンドルズが観られるってお客さまにとっても大事だと思っています。継続していかないと、劇場にお客さまがついてきてくださらない。もちろん、舞台が好評じゃなかったら続かないのですが、コンドルズはこの10年で地元のお客さまがとても増えているのが嬉しいです。

偶然の出会いが必然に!?

佐藤 5月の新作について、少し話してくれる?

近藤 2015年、いちご(15)をキーワード



「ひまわり」 Photo © HARU

にしようかな、と思っています。そこから連想して、ビートルズの「ストロベリー・フィールズ・フォーエバー」とか。(昨年体調不良で公演中止した)ポール・マッカートニーの再来日も決まったしね。去年の『ひまわり』稽古のときは、ポールの来日を軸に気持ちを整えて作品をつくってものすごい集中力だったなあ(笑)。

佐藤 そういえば今年の稽古スケジュール表に「ポール」って2日も書いてあった(笑)。

近藤 今年こそポールが来てくれるから、ビートルズで探ってみようかなって。

佐藤 コンドルズはいつもそうだよ。今ここで縁のある身近な何かとの関係を探してタイトルを考える。去年の『ひまわり』も最初、映画の『ひまわり』いいよね〜ぐらいな話しかしてない段階でコンドルズがオランダツアーに消えてしまってた(笑)。そしたらオランダの美術館でたぐさんのゴッホの絵を見て「やっぱり、ひまわりだ!」ってなった。今年はこれからアフリカツアーだから……。

近藤 アフリカで「いちご」見つかるかな(笑)。どきどきしたいよね。



Photo © Matron

佐藤まいみ(ざとう・まいみ)

「横浜市開港130周年記念フェスティバル」『ヨコハマ・アート・ウェーブ』アーティスティック・ディレクター、神奈川県芸術文化財団および「神奈川国際芸術フェスティバル」プロデューサーを経て、現在埼玉県芸術文化振興財団(彩の国さいたま芸術劇場)プロデューサー。

【公演概要】

コンドルズ 埼玉公演 2015 新作『ストロベリーフィールズ』

日 時: 5月30日(土) 開演14:00 / 19:00
5月31日(日) 開演15:00
※演出の都合により、開演時間に遅れます
と入場をお待ちいただく場合がございます。
予めご了承ください。

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
構成・映像・振付: 近藤良平
出演: コンドルズ

チケット(税込) 好評発売中
一般: 前売 S席4,500円 / A席3,500円
当日 S席5,000円 / A席4,000円
U-25*: 前売 S席3,000円 / A席2,000円
当日 S席3,500円 / A席2,500円
メンバーズ: 前売 S席4,100円 / A席3,200円
当日 S席4,500円 / A席3,600円
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。
予めご了承ください。
*U-25チケットの詳細はP.22をご覧ください。



「春男〜Spring Man〜」

Photo © Arnold Groeschel

Mami Sato

多様なダンスがひしめくヨーロッパにおいて1990年代になって急浮上したフィンランドのダンス。エネルギーあふく動きと照明や映像とのコラボレーションが生み出す洗練された舞台で定評があるが、それらの表現は、厳しくも美しい風土に根ざした豊かな感受性とも深く関わっている。自然と結びついた生活習慣を持つフィンランドでは舞踏への関心も高く、大野一雄、山海塾などが公演を重ね、ヨーロッパで活動していた故古川あづもこの国の舞踏に少なからず影響を与えた。

振付家テロ・サーリネン誕生

そんなフィンランドのダンス界で世界的に評価が高い振付家がテロ・サーリネンだ。リヨン・ダンス・ビエンナーレなどにもたびたび登場し、昨年パリでのシャイヨー劇場で上演された代表作『Borrowed Light (反射光)』(2004)が大きな評判を呼んだ。

フィンランド国立バレエ団のソリストとして活躍していたサーリネンが振付家に転身したのは、90年代初頭。フランスのヌーヴェルダンスの台頭に大きな影響を与えたカロリン・カールソンやフィンランドのダンスの父と評されるヨルマ・ウオッティネンの薫陶を受け、大野一雄の舞踏に出会い衝撃を受けた。バレエとは異なる舞踏の在り方を求めて研鑽を積み、大野一雄の下で舞踏を1年間学んだ。大地に根ざすような低い重心。バランスとオフ・バランスの絶妙な間合いで生まれる伸びやかな動き。表現とは何かという本質的な問いと向き合いながら独自の表現語彙へと行き着いた。力強く詩的な説得力を発揮する振付には、東西の身体技法が魅力的に融合している。

サーリネンの作品

サーリネンの作品は多岐にわたるが、

ダンスに目覚める前には美術の道を志しただけに、緻密な空間デザインによる美しい舞台を創る。フィンランドを代表する照明デザイナー、ミッキ・クントウをはじめ一流のアーティストとの緊密なコラボレーションを重視する妥協を許さない創作姿勢はよく知られている。

優れたダンサーでもあり、ストラヴィンスキーの『春の祭典』を現代的に読み直した自身のソロ作品『HUNT』(2002)では、映像作家マリタ・リウリアとのコラボレーションを通してメディアに晒される情報化時代の“身体性”を視覚的に豊かに表現した。エネルギーあふく動きと身体へ投影する映像が相乗的に絡まり、秀逸な効果を上げていた。

作品としての完成度、振付の卓抜さで評価が高いのが、代表作の『Borrowed Light (反射光)』で、緻密に練り上げられた舞台は、凜とした美しさを湛えている。18世紀末、アメリカへ移住した清教徒の

なかでもとりわけ戒律に厳しいシェーカー派の共同体をテーマにしており、禁欲的な生活のなかで自己を律し、神の恩寵に近づこうとする人々の姿が描かれる。軸の傾いた回転、後ろ向きの走りこみなど変形なステップで綴られるダンスの動きは一概に負荷を与えられ、自己犠牲における精神性を的確に視覚化する。無伴奏で歌われるシェーカー派の賛美歌と不均衡で変形な動きで構成される振付が拮抗し、精神性が痙攣や震えなどの肉体的な症状へと変化する様子が力強い筆致で描かれている。モダンダンスの歴史に刻まれるドリルス・ハンフリーの創作に触発されたと聞いたが、人間と宗教の関わりに深く斬りこんだ表現は21世紀の現実をも照射してやまない。ハンフリーの作品と相対化して作品を眺めてみることも面白いかもしれない。

フィンランドのダンスを取材して20年余。駿馬のような若々しいダンサーが世

界的振付家へと成長する輝かしい軌跡を見届けるにつれ来日を待望していたところ、実は昨年、彩の国さいたま芸術劇場でサーリネン振付の新作を誕生させることができた。舞踏の国際交流を進めていた埼玉県舞踏協会の委嘱に応え、日本人ダンサー26人をダイナミックに踊らせる新作『MESH』(2014)を創作し、世界初演を果たしたのだ。1ヵ月間滞在しての創作は大きな挑戦ではあったが、成果としての作品の出来が良く、それは地域の舞踏協会が世界的振付家の協力の下で誕生させた夢の結晶と言える。エネルギーあふく個と群の関わりが印象的な作品で、俊敏な動きの断片が大きくなり創り出していく。核となった笠井瑞丈のほかサーリネンの振付を力いっぱいこなしダンサー達の健闘が清々しい。

さて今回はカンパニーを率いての本格的な来日公演。日本初演される『MORPHED』は昨年8月ヘルシンキ・フェスティバルで

初演されたばかりのテロ・サーリネン・カンパニーの最新作だ。ミッキ・クントウの照明が美しく陰影を刻む舞台に、男性ダンサー8人が踊る。エサ=ベッカ・サロネンの音楽にダンサーの踏む足音がドラマティックに重なっていく。舞台を囲む無数の紐は照明によって表情を変え、「変容」を意味する題名通り、変化し続けるダンスの動きは生生流転のこの世の諸相と呼応している。

昨年は、ほかにも韓国の国立舞踊団に振付けた大作『VORTEX (つむじ風)』を発表、シベリウス・イヤーの今年、フィンランド国立オペラのために、シベリウスの曲を用いてフィンランドの国民的文学『Kullervo』の演出、振付を手がけ2月に世界初演した。創作意欲に溢れ、新作に挑み続けるテロ・サーリネンとカンパニーの活躍が世界のダンスに刺激を与えている。

21世紀ダンス・シーンをリードする テロ・サーリネン・カンパニー

文◎立木燐子 (舞踊評論家)

層の厚いフィンランドのダンス界から飛び出した、スター振付家テロ・サーリネン。自らのカンパニーとともに待望の来日を果たし、日本初演の作品を披露する。サーリネンはどのような振付家で、どのような作風の作品を発表しているのか、じっくり予習しておきたい。



Photo © Tanja Anola

テロ・サーリネン

フィンランドを代表する振付家/ダンサー。振付家として、フィンランド国立バレエ団をはじめバットシェバ舞踊団、ネザーランド・ダンス・シアター (NDT)、リヨンオペラ座バレエ団など世界の一流カンパニーに振付作品を提供。また、リヨン・ダンス・ビエンナーレほか国際的なダンス・フェスティバルの常連で、仏政府からシュヴァリエ勲章、フィンランド獅子勲章など受賞多数。

彩の国さいたま芸術劇場で、テロ・サーリネン・カンパニーの最新作を上演できることにワクワクしています。日本は特別な場所で、90年代初めに東京で藤間流の日本舞踊を通じて歌舞伎を、横浜では大野一雄氏に舞踏を学びました。この経験はアーティストの卵であった私に大きな影響を及ぼしましたし、学び得たことは今でも様々な形で私の作品の中に見られます。東京で踊ったこともありますし、2014年には、埼玉県舞踏協会からの委嘱で新作『MESH』を振付、上演することができましたが、今回は私自身のカンパニーを率いての初めての来日公演ですので、本当に楽しみにしています!

テロ・サーリネン



Photo © Heikki Tuuli



Photo © Heikki Tuuli

【公演概要】

テロ・サーリネン

『MORPHED - モーフ』

日時: 6月20日(土)・21日(日) 開演 15:00
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内が出来ない場合がございます。予めご了承ください。
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付: テロ・サーリネン
出演: テロ・サーリネン・カンパニー

チケット(税込)
一般: S席5,000円/A席3,500円
U-25*: S席3,500円/A席2,000円
メンバーズ: S席4,500円/A席3,200円

発売日: 一般4月4日(土) メンバーズ3月28日(土)
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
*U-25チケットの詳細はP.22をご覧ください。

公演ラインナップ

2015年度の音楽公演をざらりご紹介。「ピアノ・エトワール・シリーズ」、「次代へ伝えたい名曲」、「佐藤俊介の現在」という3本のシリーズのほかに、室内楽、バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) など宝石のような公演が揃った。それぞれの聴きどころを紹介する。



ベンジャミン・グローヴナー
©operaomnia.co.uk

チョ・ソジン
©Ramistudio.com



文◎片桐卓也 (音楽ライター)

いち早く聞きたい新しい才能から、世界中からその演奏を求められている一流演奏家まで、2015年5月から彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールで行われるコンサートは素敵なラインナップだ。

ピアノ・エトワール・シリーズ

音楽ホールを代表する企画と言える「ピアノ・エトワール・シリーズ」には、新鋭が二人とアンコール (再登場) が二人。今まさに世界で活躍をしている、あるいは活躍し始めた「新星」ピアニストを紹介するフレッシュさに溢れたシリーズである。

エトワール・シリーズ Vol.27にはベンジャミン・グローヴナー (9月5日) が登場する。1992年生まれのイギリスの若手ピアニストだが、11歳の時にBBC ヤング・ミュージシャン・オブ・ザ・イヤーのピアノ部門で優勝。その頃から、あのキーシンの再来とも言われて注目されてきた。2011年にはロンドンの夏の名物音楽祭「プロムス」に出演し、名門デッカ・レーベルと契約を結んでCDデビューを飾った。今回の音楽ホールのコンサートでは、

ショパンのソナタ第2番「葬送」、ラヴェルの《クーブランの墓》、そしてリストの《ヴェネツィアとナポリ》などを演奏するが、テクニックにも秀でたピアニストらしいプログラムが楽しみだ。エトワール・シリーズ Vol.28には韓国出身のチョ・ソジン (2016年1月31日) が出演する。1994年生まれ。2009年の第7回浜松国際ピアノコンクールに15歳で優勝を果たした逸材である。韓国、日本だけでなく、パリでチョン・ミョンフン指揮フランス国立放送フィルと共演するなど、世界的に活躍している。2012年からはパリ高等音楽院で学んでいる。その美しい音色が話題となったが、今回はショパンの《24の前奏曲》、スクリャービンのソナタ第5番などを予定している。

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール Vol.4には、フランチェスコ・トリストターノが登場する (11月29日)。J. S. バッハとジョン・ケージを結びつけ、バッハなどにインスピレーションを得た自分自身の作品も展開するなど、いわゆるクラシックの演奏家の枠を超えた活動をしているピアニストだ。このアンコールでも、

バッハと自作を並べたプログラムで、彼らしい世界が繰り広げられるだろう。アンコール Vol.5は日本を代表する若手ピアニスト・福間洸太郎 (2016年2月20日)。いつも刺激的で凝ったプログラムを用意してくれる福間だが、今回はコンサート当日が武満徹の20回目の命日にあたるので、武満作品を中心にしたものになりそう。演奏のクオリティの高さはもちろんだが、新たな発見もありそうなコンサートだ。

ヴァイオリンの公演

ピアノだけではなく。5月24日にはヴァイオリンの庄司紗矢香とピアノのジャンルカ・カシオーリのデュオ・リサイタルが行われる。庄司はヨーロッパを拠点に世界的な活躍を続けるヴァイオリニストで、常に作品の本質に迫ろうとする意欲的な演奏で多くのファンを獲得している。カシオーリは作曲家としても活動しており、独自の視点から作品を再構築する点が魅力的だ。二人はデュオとしても長い活動歴を持っていて、再演が待望されていた。今回はモーツァルト、ベートーヴェン、ストラヴィンスキー、ラヴェルというプログラムで、古典から近現代まで、幅広い作品が並ぶ。この二人はベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタの全曲録音にも挑戦

庄司紗矢香
Photo © Kishin Shinoyama



ジャンルカ・カシオーリ
Photo © Silvia Lelli



佐藤俊介
Photo © Sakai Koki



している。その成果を期待したい。

ヴァイオリンと言えば、2015年2月にその第1回目の演奏会を行った佐藤俊介の「現在(いま)」シリーズ Vol.2が2016年2月13日に行われる。Vol.1ではダンスとのコラボレーションというユニークな公演を行ったが、Vol.2ではバロック・チェロの第一人者である鈴木秀美などのアンサンブルを行う。佐藤はモダン・ヴァイオリンばかりでなくバロック・ヴァイオリンでも、ヨーロッパの古楽団でコンサートマスターを務めるほどの実力派。そして、岡本誠司 (ヴァイオリン)、原麻理子 (ヴィオラ)、スーアン・チャイ (フォルテピアノ) という実力派のメンバーとのアンサンブルは、音楽ホールにまた新しい風を巻き起こしそうな予感がする。

次代へ伝えたい名曲

音楽ホールでの新しいユニークなシリーズとして注目されているのが「次代へ伝えたい名曲」である。これまで堤剛、仲道郁代、堀米ゆづ子が登場した。2015年度には第4回にギターの福田進一 (9月12日)、第5回にヴィオラの今井信子 (11月28日)、第6回にピアノの小山実雅恵 (2016年3月5日) が登場する。このシリーズは、経験豊富な日本を代表する演奏家たちが、次世代の演奏家、聴衆に対して演奏し続けて欲しい、聞き続けて欲しい作品をそれぞれを選び、コンサートを行うというもの。古典から現代の作品まで、それぞれの演奏家の選曲の意図も興味深いコンサートだ。特にいま音楽を学んでいる人たちに聞きに来て欲しいコンサートである。



福田進一



今井信子
Photo © Marco Borggreve



小山実雅恵
Photo © Wataru Nishida

彩の国さいたま芸術劇場 Schedule

2015	5月24日 (日) 15:00	庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル
	7月11日 (土) 15:00	アンサンブル・ウィーン=ベルリン
	9月5日 (土) 15:00	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.27 ベンジャミン・グローヴナー ピアノ・リサイタル
	9月12日 (土) 14:00	「次代へ伝えたい名曲」第4回 福田進一 ギター・リサイタル
	9月26日 (土) 15:00	タンブッコ・パークッション・アンサンブル ※9月27日 (日) 深谷公演 (於: 旧七ツ梅酒蔵内 東蔵ホール)
	11月15日 (日) 15:00	マリア・ジョアン・ピリスとピリスが選んだ若き才能との共演 (仮称)
	11月28日 (土) 15:00	「次代へ伝えたい名曲」第5回 今井信子 ヴィオラ・リサイタル (ピアノ: キム・ソヌク)
	11月29日 (日) 15:00	ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.4 フランチェスコ・トリストターノ ピアノ・リサイタル
12月20日 (日) 15:00	バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》(指揮: 鈴木雅明)	
2016	1月31日 (日) 15:00	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.28 チョ・ソジン ピアノ・リサイタル
	2月13日 (土) 15:00	佐藤俊介の現在 Vol.2 (ヴァイオリン: 佐藤俊介、岡本誠司 ヴィオラ: 原麻理子 チェロ: 鈴木秀美 フォルテピアノ: スーアン・チャイ)
	2月20日 (土) 15:00	ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.5 福間洸太郎 ピアノ・リサイタル
	3月5日 (土) 14:00	「次代へ伝えたい名曲」第6回 小山実雅恵 ピアノ・リサイタル

ユニークな来日公演、BCJも

シリーズ以外でも2015年には注目コンサートが目白押し。まず7月11日にはアンサンブル・ウィーン=ベルリンがやって来る。その名前の通り、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルという世界的オーケストラのメンバーを中心に管楽器の名手



アンサンブル・ウィーン=ベルリン
Photo © Karlinsky

たちが集い、ひとつのアンサンブルとして活動してきた。2013年には30周年を祝ったが、そこで創設メンバーのひとり、オーボエのシェレンベルガーが引退し、完全に世代交代をすることになった。現在はベルリン・フィルのオッテンザマー(クラリネット)、ケリー(オーボエ)、ドール(ホルン)、ウィーン・フィルのシュッツ(フルート)、ウィーン響のガラ(ファゴット)がメンバーとなっている。夏の演奏会なので、メンデルスゾーンの《真夏の夜の夢》、バーバー《夏の音楽》などを曲目に入れ、またガーシュウインの《ポーギーとベス》木管五重奏版なども演奏する。これは一期一会のコンサートになりそうだ。

そして秋、11月15日には世界的ピアニストであるマリア・ジョアン・ピリスが公演を行う。そのタイトルは「ピリスが選んだ若き才能との共演」(仮)とされているが、常に若い演奏家の音楽的な成長を願うプロジェクトを行っているピリスらしいコンサートだ。ピリスの温かな音楽性、豊かな感性が若い演奏家にどんなインスピレーションを与え、そこからどんな音楽が引き出されるのか、とても興味深いコンサートとなるだろう。

この他では、9月26日にタンブッコ・パーカッション・アンサンブルのコンサートが開催される。タンブッコ・パーカッション・アンサンブルはメキシコの団体だが、パーカッションという名前からは想像出来ないほど、多彩な音楽を披露してくれる団体である。プログラムにはバロックから現代まで幅広い時代の作品が並ぶ。現代メキシコの作曲家の作品もあるが、以前に聞いた彼らのコンサートはとて楽しいもので、未知の作品に出

う魅力もある。また恒例となっているバッハ・コレギウム・ジャパンの演奏会だが、12月20日にはヘンデルの《メサイア》が演奏される。これもクリスマス・シーズンには欠かせない演奏会。



下野竜也
Photo © Naoya Yamaguchi



清水和音
Photo © K. Miura

埼玉会館公演

そして、埼玉会館での人気企画「夏休みオーケストラランド!」は7月26日に飯森範親指揮の東京交響楽団が登場。今年の公演で10年目となる。11月8日のNHK交響楽団コンサートは下野竜也指揮、ピアノに清水和音を迎えて行われる(埼玉会館は改修に入るの、さいたま市文化センター 大ホールで開催)。また埼玉会館のランチタイム・コンサートは6月19日にはN響メンバーによるアンサンブルが、8月25日にはバラライカ奏者・北川翔とアコーディオン奏者の大田智美というユニークな組み合わせのコンサートが開催される。

2015年も様々なコンサートで、お楽しみいただきたい。



マリア・ジョアン・ピリス



タンブッコ・パーカッション・アンサンブル



鈴木雅明
Photo © Marco Borggreve

埼玉会館 Schedule

※埼玉会館は大規模改修工事のため、2015年10月1日から2017年3月31日まで休館予定です。休館中の公演は別会場で開催いたしますので、ご注意ください。

2015	公演日	時間	内容
	6月19日(金)	12:10	埼玉会館ランチタイム・コンサート第29回 NHK交響楽団メンバーによるアンサンブル (ヴァイオリン:大宮臨太郎、松田拓之 ヴィオラ:坂口弦太郎 チェロ:山内俊輔 ピアノ:高橋希)
	7月26日(日)	14:00	埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド! (指揮:飯森範親 司会:朝岡聡 ヴァイオリン:河井勇人 管弦楽:東京交響楽団)
	8月25日(火)	12:10	埼玉会館ランチタイム・コンサート第30回 北川翔(バラライカ) & 大田智美(アコーディオン)
	11月8日(日)	16:00	NHK交響楽団 下野竜也(指揮) 清水和音(ピアノ) 会場=さいたま市文化センター 大ホール 共催:公益財団法人さいたま市文化振興事業団

驚異のヴィルトウオーゾ集団 アンサンブル・ウィーン=ベルリン

木管五重奏の楽しさを世に知らしめたアンサンブル・ウィーン=ベルリンが、メンバーチェンジで若者が入り、再び彩の国に登場する。彼らが演奏する曲は、どの時代の作品でもめっちゃくちゃ楽しい。それは個々の演奏家が実に幸せそうに演奏し、それらがひとつになった時の快感=アンサンブルの醍醐味も感じさせてくれるから。注目の公演をお聴き逃しなく。

引退となり、この夏は新メンバーとしての初来日となるためだ。ちなみにウィーンとベルリンの割合は、これまでは少しだけウィーン寄りだったのが、ウィーンの有名なクラリネット一家の出身でベルリン・フィルに所属するというオッテンザマーの加入で、ちょうど半々(?)になり、平均年齢的にも20歳ほど若返りを果たしたことになる(あのドールが最年長!)

注目のプログラム

今回のプログラムにも触れておこう。ハイドンからガーシュウインまでをセレクトし、前半を欧州古典、後半をアメリカ(北米・中米)の近現代作品でまとめた巧みで多彩な内容はいかにも彼ららしい。

EWBが最初に録音した曲のひとつで

あるハイドンのディヴェルティメントをオープニングに置いているのは、創立メンバーへの敬意と初心を大切にしようという気持ちの表れだろうか。《真夏の夜の夢》や《スラヴ舞曲集》、バーバーも録音のある彼らの十八番である。

対してデリベラとガーシュウインはEWBには珍しいだろう。デリベラはラテン・ジャズのサクソ、クラリネット奏者で名高いが、ヨーヨー・マらに曲を書いたり、クラシックの作曲家としても活躍するマルチ・ミュージシャン。《熱帯の歌》と題された本作は、〈アルポラダ(朝の歌)〉に始まり、ラヴェル風の〈ハバネラ〉や〈ベネズエラのワルツ〉、バンド仲間でもあったジャズ・トランペットの大御所ディジー・ガレスピーに捧げた(Dizzyness)などを含む、ラテン・テイストたっぷりの7つの小曲からなる楽しい組曲である。

ガーシュウインは、〈サマータイム〉をはじめとする名歌5つのセットで、2010年に出版されたアレンジ。EWBはモーツァルトのオペラ編曲などをよく取り上げていたもので、《ポーギーとベス》はその延長ともいえるが、これら新たなレパートリーを組み込むことで、EWBの伝統を踏襲しつつ、今後のさらなる展開を示唆しているとみやすことも可能だ。

最後にもうひとつ。今回の来日では、世代が若返ったゆえに、これまでのベテランの“味”とは異なる、より高い機能・精度の面が顕著になるはず。新生EWBの門出を祝いつつ、彼らスーパー・プレイヤーたちの繰り出すメカニカルな妙技と、丁寧な発止と展開されるアンサンブルの醍醐味、そして作品の魅力を余すところなくお楽しみいただきたい。

文◎松本 學 (音楽評論家)

木管アンサンブルを楽しむ

彩の国さいたま芸術劇場といえば、多くの方が「ピアノに強い」という印象をお持ちだと思う。それに異を唱えるつもりは毛頭ないが、2011年のカレファックスや、昨年2014年のレ・ヴァン・フランセなど、重要な団体の公演を催してきたように、ここは木管アンサンブルの分野でも要注目のホールなのだ。その芸術劇場に、このジャンルにおける現代的な団体の老舗であり、世界最高峰として長くその地位を誇るアンサンブル・ウィーン=ベルリン(EWB)が9年ぶりに再登場する。

ウィーンとベルリンの名物首席奏者5名が集まり、1983年に結成したこの団体。翌84年の初来日以来、日本のファンにもすっかりお馴染みとなったが、今回は少し……いやかなり趣が異なる。というのは、昨年にシェレンベルガーが次代にバトンを渡したことに

り創立メンバーは皆



カール=ハインツ・シュッツ
ジョナサン・ケリー
アンドレアス・オッテンザマー
Photo © Anaton Kotte Mercury Classics DG
リヒャルト・ガラ
シュテファン・ドール

公演概要

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

日 時: 7月11日(土) 開演15:00
会 場: 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
目 的: ハイドン/ディヴェルティメント
メンデルスゾーン/《真夏の夜の夢》木管五重奏版
ドヴォルジャーク/《スラヴ舞曲集》より
バーバー/夏の音楽 作品31
デリベラ/アイレス・トロピカレス
ガーシュウイン/《ポーギーとベス》木管五重奏版

チケット(税込) 好評発売中
一 般: 4,500円 U-25*: 2,000円
メンバーズ: 4,100円
*U-25チケットの詳細はP.22をご覧ください。

Profile

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

2013年、結成30周年を機にメンバーを一新。現在のメンバーは、カール=ハインツ・シュッツ(Fl. ウィーン・フィル首席)、ジョナサン・ケリー(Obo. ベルリン・フィル首席)、アンドレアス・オッテンザマー(Cl. ベルリン・フィル首席)、リヒャルト・ガラ(Fg. ウィーン響首席)、シュテファン・ドール(Hr. ベルリン・フィル首席)。

PLAY 1月22日～2月15日

蜷川幸雄80周年記念作品
二ナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾
『ハムレット』



蜷川幸雄8度目となる新演出。日本で初めて『ハムレット』が紹介された明治時代の長屋の前で、現代の俳優たちが最終リハーサルを演じる。若き日の疾走感あふれるハムレットを経て再びタイトルロールに挑んだ藤原竜也は、怒りと苛立ちをたぎらせながら人生の深淵に至るハムレットの軌跡を力強く体現した。眼前に巨壁のごとく立ち塞がる平幹二郎のクローディアスが沐浴で裸をする場面では客席がどよめき、反省なき悪人の絶望に息をのむ。母ガートルードへの執着、恋人オフィーリアへの苛烈な拒絶。過剰なハムレットの生は、ひ弱なノルウェー王子フォーティンブラスに取って代わられてしまうのだ。

Photo ©渡部孝弘

PLAY 1月16日

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～柳家花緑 新春落語競演会

平成11年度の「彩の国落語大賞」受賞から15年余。人気落語家としてジャンルを超えた活躍を続ける柳家花緑が、満を持して登場。若手精鋭たちと華やかに競演した。柳家わざび『らくがき』、古今亭文菊『親子酒』に続いて、三遊亭丸丸が『お見立て』。仲入り後は蜷川幸雄『鹿政談』、そして花緑は祖父・



Photo ©加藤英弘

5代目小さんの十八番『笠碁』を披露。碁好きのご隠居同士がささいなことで仲違い。いといトシこいて意地を張り合う幼なじみのじいさんたちがおかしいやら可愛いやら。持ち味の爽やかさに加え、しみじみとした情感も醸し出す好演だった。

PLAY 1月24日 埼玉会館 大ホール

新春狂言 万作・萬斎の世界

昨年、舞台生活80年という節目の年を迎えた人間国宝の野村万作が、3年ぶりに埼玉会館に登場。人違いとは知らず詐欺師を連れ帰ってしまう太郎冠者と主人とのやり取りが楽しい『咲嘩(さっか)』では、品格あるおかしみの芸で観客を魅了した。野村萬斎の『悪太郎(あくたろう)』は、手のつけられない暴れ者の悪太郎が一転して悟りを開き、前半と後半でガラリと趣が異なる変化も見もの。会場は新春にふさわしく温かな笑いに包まれ、開演前に見どころや楽しみ方を解説する狂言講座も好評だった。



『咲嘩』 Photo ©加藤英弘

DANCE 1月31日・2月1日

日本昔ばなしのダンス
近藤良平『ねずみのすもう』
下司尚実『いっすんぼうし』

日本の昔ばなしをもとに、大人も子どもも楽しめるダンス公演として人気のシリーズ第5弾。大稽古場で行われた今回は、下司尚実振付による『いっすんぼうし』が初登場。おなじみのちっちゃな勇者いっすんぼうしの恋と冒険を、下司を含む女性パフォーマー3人がキュートに踊り演じていく。想像力を刺激される照明の演出や憎めない鬼の造形も楽しく、元気が出る作品となった。近藤良平振付『ねずみのすもう』の再演では、コワモテねずみたちの間拔けな真剣勝負に腹を抱えて大笑い。

『いっすんぼうし』 Photo ©Matron



MUSIC 1月6日 埼玉会館 大ホール

埼玉会館ニューイヤー・コンサート
大谷康子&東京交響楽団室内合奏団

毎年新年恒例の「ニューイヤー・コンサート」。今年は平日昼間の開催となったが、1,000人もの聴衆が集まった。前半は「ウキウキと踊りたくなるような曲」を大谷康子の軽妙なトークとともに、後半はスタイルも世界観も異なる4人の作曲家による弦楽合奏の魅力をつつりと、という巧みな構成のプログラム。そしてアンコールには客席の間を練り歩く大谷とステージ上のメンバーとの息の合ったチャールダーシュが演奏され、客席の盛り上がりも最高潮に。「元気が出た」「クラシックって楽しいですね」という嬉しい声も寄せられる公演となった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 1月17日

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26
アレクサンダー・ロマノフスキー

ベートーヴェンのピアノ・ソナタの14番「月光」と30番、ショパンのバラードの2番と4番、最後はショパンのピアノ・ソナタの2番と、どれもプログラムのメインに持ってくるような大曲を自信に満ちた迷いのない演奏で、力強く弾ききった。プログラム構成にはじまり、会場の音響も含めて考え抜かれたパーフェクトな演奏。ロマノフスキーのピアノリズムに会場の聴衆は大いに酔いしれたのだった。エトワール・シリーズに出演するにふさわしい若さではあるが、すでにベテランの風格を備え会場を圧倒した。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 1月10日

「次代へ伝えたい名曲」第3回
堀米ゆず子 ヴァイオリン・リサイタル

モーツァルトの《ヴァイオリン・ソナタ第40番》と大きな作品で始まったリサイタル。続くドビュッシー最後の作品《ヴァイオリン・ソナタ ト短調》では多彩な響きが残る印象を残し前半が終わった。後半最初は恩師である三善晃の《鏡》、起伏に富むドラマティックな音に包まれ、クライマックスであるフランクの傑作《ヴァイオリン・ソナタ イ長調》へ。共演の津田裕也も感度のよい柔軟なピアノで応え、エネルギーで生命力あふれる爽快な演奏を繰り広げた。どの曲も作品の素晴らしさ、作曲家の意図を客席に届けたいという強い思いが伝わる熱演だった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 2月14日

佐藤俊介の現在
Vol.1 ヴァイオリン×ダンス—奏でる身体

バッハ、イザイらの無伴奏ヴァイオリン・ソナタなどから楽章を抜粋し、9つのシーンを構成。ダンサーの柳本雅寛は即興を交え、佐藤とスリリングなコラボレーションを繰り広げる。それは、音楽に合わせた振付ではなく、踊りのために音楽を奏でるのでもない。彼らの感性のしなやかさが際立った。佐藤は自在に動き回り、解放感に満ち演奏を楽しんでいたように見え、最後のバッハのシャコンヌでは圧巻の演奏を披露した。録音と生演奏のかけあい照明を効果的に使った田村吾郎の演出も冴え、曲の魅力を一層引き出していた。

Photo ©A.Groeschel



PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
3	march	開演時間	開演時間	3	march	3	march
15	日					15	日
16	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場-熊谷会館)			16	月
17	火					17	火
18	水		休館日(埼玉会館)			18	水
19	木					19	木
20	金					20	金
21	土祝					21	土祝
22	日					22	日
23	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			23	月
24	火					24	火
25	水					25	水
26	木					26	木
27	金					27	金
28	土					28	土
29	日					29	日
30	月					30	月
31	火					31	火
1	水					1	水
2	木					2	木
3	金					3	金
4	土					4	土
5	日					5	日
6	月					6	月
7	火					7	火
8	水					8	水
9	木					9	木
10	金					10	金
11	土					11	土
12	日					12	日
13	月					13	月
14	火					14	火
15	水					15	水
16	木					16	木
17	金					17	金
18	土					18	土
19	日					19	日
20	月					20	月
21	火					21	火
22	水					22	水
23	木					23	木
24	金					24	金
25	土					25	土
26	日					26	日
27	月					27	月
28	火					28	火
29	水祝					29	水祝
30	木					30	木
1	金					1	金
2	土					2	土
3	日祝					3	日祝
4	月祝					4	月祝
5	火祝					5	火祝
6	水祝					6	水祝
7	木					7	木
8	金					8	金
9	土					9	土
10	日					10	日
11	月					11	月
12	火					12	火
13	水					13	水
14	木					14	木
15	金					15	金
16	土					16	土
17	日					17	日
18	月					18	月
19	火					19	火
20	水					20	水
21	木					21	木
22	金					22	金
23	土					23	土
24	日					24	日
25	月					25	月
26	火					26	火
27	水					27	水
28	木					28	木
29	金					29	金
30	土					30	土
31	日					31	日

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場にて開催します

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
~平成26年度彩の国
落語大賞受賞者の会

夏の四季彩亭には、平成26年度彩の国落語大賞を見事に受賞した立川談笑が登場。お楽しみに。



Photo ©小林万里

チケット発売日 一般：4月24日(金)
メンバーズ：4月18日(土)

日時：7月18日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：立川談笑 ほか
チケット(税込) 一般：3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)：2,000円
メンバーズ：2,700円

松竹大歌舞伎
チケット発売日 一般：4月18日(土)
メンバーズ：4月11日(土)

海辺のカフカ
チケット発売日 一般：6月13日(土)
メンバーズ：6月6日(土)
※メンバーズプレオーダー(抽選)があります

DANCE
テロ・サーリネン
『MORPHED - モーフ』
チケット発売日 一般：4月4日(土)
メンバーズ：3月28日(土)

*U-25チケットの詳細はP.22をご覧ください。

MUSIC

埼玉会館ファミリークラシック
夏休みオーケストラ!
家族で楽しめる夏休みの人気公演は今年で10年目!
お祝いの序曲からはじまり、参加コーナー、オーケストラの名曲と、もりだくさんのプログラムです。



2014年公演の様子 Photo ©加藤英弘

チケット発売日 一般：4月4日(土)
メンバーズ：3月28日(土)

日時：7月26日(日) 開演14:00
会場：埼玉会館 大ホール
出演：飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、河井勇人(ヴァイオリン/第67回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位)、東京交響楽団(管弦楽)
曲目：♪指揮者にチャレンジ!
ピゼー/《カルメン》前奏曲より
♪みんなで歌おう&演奏しよう
久石 譲/映画『となりのトトロ』より
〈となりのトトロ〉ほか
デュカス/交響詩《魔法使いの弟子》

チケット(税込) 一般：大人 S席3,500円/A席3,000円
子ども(中学生以下) S席 1,500円/A席 1,000円
メンバーズ：大人 S席 3,200円/A席 2,700円
※3歳未満のお子さまの入場はご遠慮ください。

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第4回
福田進一 ギター・リサイタル

チケット発売日 一般：4月25日(土)
メンバーズ：4月18日(土)

日時：9月12日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ソル/モーツァルトの《魔笛》による序奏と変奏曲 ほか
チケット(税込) 一般：正面席4,000円/バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象):1,500円
メンバーズ：3,600円



ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol. 27 ベンジャミン・グロヴナー
Vol. 28 チョ・ソンジン
アンコール! Vol. 4 フランチェスコ・トリスターノ
アンコール! Vol. 5 福岡 洸太郎

チケット発売日 [4公演セット券]
一般：4月25日(土) メンバーズ：4月18日(土)
[Vol. 27 単独券]
一般：5月30日(土) メンバーズ：5月23日(土)
※各公演単独券は順次発売します。

日時・曲目：
[Vol.27]9月5日(土) 開演15:00
ラヴェル/クーブランの墓 ほか
[Vol.28]2016年1月31日(日) 開演15:00
ショパン/24の前奏曲 作品28 ほか
[アンコール! Vol.4]11月29日(日) 開演15:00
バッハ/ハルティータ第2番 BWV826 ほか
[アンコール! Vol.5]2016年2月20日(土) 開演15:00
武満 徹/リタニ ほか

チケット(税込) [4公演セット券]
一般・メンバーズ：正面席12,500円/バルコニー席10,500円
U-25*(バルコニー席対象)：4,500円
[Vol.27単独券]
一般:正面席3,500円/バルコニー席 2,500円
U-25*(バルコニー席対象)：1,000円
メンバーズ:正面席 3,200円

◆埼玉会館ランチタイム・コンサート第30回
北川 翔(バラライカ)&
大田智美(アコーディオン)

チケット発売日 一般：5月31日(日)
メンバーズ：5月30日(土)

◆NHK交響楽団
下野竜也(指揮) 清水和音(ピアノ)
◆マリア・ジョアン・ピリスと
ピリスが選んだ若き才能との共演(仮)

◆タンブッコ・パーカッション・アンサンブル

チケット発売日 一般：6月6日(土)
メンバーズ：5月30日(土)

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。

[チケットの購入方法について]

インターネット

「SAF オンラインチケット」で、発売初日 10:00 から公演前日 23:59 まで受付いたします。
[PC・携帯共通] <http://www.ticket.ne.jp/saf/>

電話予約

●チケットセンター
0570-064-939
10:00 ~ 19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。
電話予約したチケットの引取もできます。
●彩の国さいたま芸術劇場 (10:00 ~ 19:00)
●埼玉会館 (10:00 ~ 19:00)
●熊谷会館 (10:00 ~ 17:00) [3月末まで]
※休館日をお確かめの上 ご注意ください。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】⇒【コンビニ発券】
または【コンビニ支払い】
※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】⇒【コンビニ発券】
または【コンビニ支払い】
※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後に宅配便での配送も承りますが、チケット代ほかに送料(配送1件につき400円)が必要です。

メンバーズ 【口座引落】⇒ その場でチケットをお渡しします。
※手数料はかかりません。

一般 【現金】または【クレジットカード決済】⇒

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾
さいたまネクストシアター第6回公演
『リチャード二世』

詳細は
⇒ P.3
~5

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
〜三遊亭小遊三と精鋭若手落会

日時：4月24日(金) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：三遊亭小遊三、三遊亭遊馬、
柳亭小痴楽、桂 宮治
チケット(税込)
一般：3,000円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)：2,000円
メンバーズ：2,700円

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2015新作
『ストロベリーフィールズ』

詳細は
⇒ P.10
~11

「U-25」チケット、はじめました!

多くの若い方に、舞台芸術を愉しんでいただきたく25歳以下を対象に「U-25」チケットをはじめました。この機会にぜひ、親子で、学校のお友だち同士で劇場に足を運んでみませんか?

- 販売場所
- ・SAFチケットセンター (10:00 ~ 19:00) 0570-064-939
 - ・SAFオンラインチケット www.ticket.ne.jp/saf/
 - ・窓口(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館[3月末まで])

■注意事項

- ・公演時、25歳以下の方が対象です。
- ・「U-25」チケットは対象の公演、日程、席種がございます。ご確認の上、お買い求めください。
- ・「U-25」チケットは公演当日、会場・入場口で身分証明書(学生証・保険証・免許証など公式に年齢を確認できるもの)と一緒に係員にお見せください。
- ・「U-25」チケットは枚数制限がございます。上限に達し次第、販売を終了いたします。

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2015.4-6

【全席自由・各回入替制・整理券制】
料金：【当日支払いのみ】大人1,000円/学生500円(学生証を確認する場合がございます)
※4月は各作品別料金です。



4月8日(水)~12日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A 『ストックホルムでワルツを』
B 『かもめ食堂』

8日(水) 10:30(A)/14:00(B)/17:00(A)
9日(木) 10:30(A)/14:00(A)/17:00(B)
10日(金) 10:30(B)/14:00(A)/17:00(A)
11日(土) 10:30(A)/14:00(B)/17:00(A)
12日(日) 10:30(B)/14:00(A)



A 『ストックホルムでワルツを』
(2013年/スウェーデン/111分/PG12)
監督：ペール・フライ
出演：エッタ・マグナソン、スペリル・グドナソン、
シエル・ベリクヴィスト ほか

B 『かもめ食堂』(2005年/日本/102分)
監督・脚本：荻上直子
出演：小林聡美、片桐はいり、もたいたまこ ほか

©2006 かもめ商会



5月7日(木)~10日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『物語る私たち』

7日(木) 10:30/14:00/17:00
8日(金) 10:30/14:00/17:00
9日(土) 10:30/14:00/17:00
10日(日) 10:30/14:00

©2012 National Film Board of Canada

監督・脚本：サラ・ポーリー
出演：マイケル・ポーリー、ハリー・ガルキン、スージー・バカン ほか
(2012年/カナダ/108分)



6月11日(木)~14日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『リスボンに誘われて』

11日(木) 10:30/14:00/17:00
12日(金) 10:30/14:00/17:00
13日(土) 10:30/14:00/17:00
14日(日) 10:30/14:00

©2012 Studio Hamburg Filmproduktion GmbH / C-Films AG / C-Films Deutschland GmbH / Cinemate SA. All Rights Reserved.

監督：ピレ・アウグスト
出演：ジェレミー・アイアンズ、メラニー・ロラン、ジャック・ヒューストン ほか
(2012年/ドイツ・スイス・ポルトガル/111分)

THEATER BRIDGE

Information

藤田俊太郎さん「第22回
読売演劇大賞」杉村春子賞受賞!



蠅川幸雄作品の演出助手としても活動している藤田俊太郎さんが第22回読売演劇大賞(読売新聞社主催)で「杉村春子賞」(新人賞)を受賞しました。藤田さんは、本格的なデビュー作である『ザ・ビューティフル・ゲーム』の演出(2014年1月~2月/新国立劇場小劇場)での選出。作品は1970年代のアイルランドを舞台に、サッカーに青春をかける少年達がカトリックとプロテスタントの熾烈な争いに巻き込まれていく姿を描いた、人気作曲家アンドリュー・ロイド＝ウェバー(『オペラ座の怪人』などのミュージカル。「複雑な政治状況や社会背景を丁寧に読み解き、(中略)細部にまで熱く目配りし、なお創る喜びにあふれ、興奮に満ちた舞台」と高く評価され今回の受賞となりました。今後の活躍が期待されます。

藤田俊太郎さん「第22回読売演劇大賞」杉村春子賞受賞!

Information

熊谷会館閉館に伴うお知らせ

日頃より当財団で管理している熊谷会館につきましてご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。このたび平成27年3月31日をもって、熊谷会館が閉館することとなりました。このため、熊谷会館の施設利用を終了しますとともに、窓口チケット販売、及びチケッ

ト引き換えについても同日をもって終了させていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

長い間のご利用ありがとうございました。



3月31日をもって閉館する熊谷会館

ACCESS MAP アクセスマップ



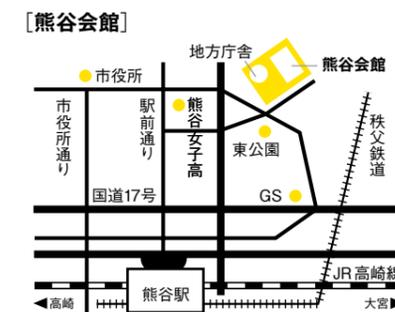
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515

●電車でアクセス
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでアクセス
→ JR 京浜東北線浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477

●電車でアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広 3-9-2
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536

●電車でアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるように、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 / (株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 東芝エルティエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / アルピーノ村 / 国際照明(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動開発(株) / ヒストロ やま / 埼玉信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) プラネッツ / 関東自動車(株) / (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) / ボラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) 国大セミナー / (株) NEWSエンターテインメント / (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) / 医療法人 榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社 / (株) セノン / ショッパー / (株) 松尾楽器商会 / JA 埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉 / ファミリーマートあすまや / (有) 杉田電機 / 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株) さいたま支店 / (株) 片岡食品 / (株) 協栄 / (株) ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉支店 / チャコット(株) / (株) 平和自動車 / 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株) / さくらMusic Office / 神田大塚法律事務所 / クワバラ・パンふキン / 駒橋内科医院 / 東和産業(株) / テレビ埼玉 / 日本ビストンリング(株) / 金井大道具(株) / 国立大学法人 埼玉大学 / (株) 七越製菓

【お問い合わせ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

H27.2.25 現在 / 一部未掲載



劇場のポジティブ・オルガン

文◎大塚直哉(東京藝術大学准教授/当劇場オルガン事業アドバイザー)



フランスのガルニエ社製
ポジティブ・オルガン
(2000年製作)

彩の国さいたま芸術劇場には、小さな箱型のオルガンがある。お賽銭箱にも見える箱の中をのぞいてみると200本以上のパイプがぎっしりと詰まったれっきとしたパイプオルガンである。低音のパイプがいくつか木製だが、ほとんどのパイプは錫と鉛の合金でできている。昔は人の力でふいごを動かし風を送っていたところを、奏者のいすの下に収められた電力のモーターがふいごを動かしている。しかしそれ以外の部分は、

ほぼ昔ながらのやりかたで、15年くらい前にフランスの工房で丁寧に製作された。

このパイプオルガン、ホールや教会の大オルガンとも、また昔、教室などで見かけたリードオルガンとも区別されて「ポジティブ」オルガンと呼ばれている。昔の西洋絵画で天使が手にしている「手で持って弾く(=ポルタティーフ)」オルガンに対し、「床に置いて弾く(=ポジティブ)」という意味で名付けられた。

2006年に始まった「光の庭プロムナード・コンサート」で、これまでかなりの数のプロのオルガニストたちが、美しいこの楽器の音色を生かすべく、アンサンブルや即興演奏など、さまざまな工夫を凝らして演奏してきた。一般の人にも触れてもらう「みんなのオルガン講座」も今年で10年目を迎える。歴代の受講生はもう100人を超えているはずで、毎年冬の終わりに、笑いあり涙ありの発表会が開かれる。

オルガンの音は、だれが弾いても変わらないようでいて実は弾く人によってものすごく違う。また多くの人が弾きこむほど、音が深くなっていく。このポジティブもこれからどんなふうになっていくか楽しみでならない。

内部に並ぶパイプの数々



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2015.3-4

平成27年3月15日発行 56号(隔月15日発行) 第56号(3月-4月)
発行人: 竹内文則 発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500